

母と書
書家 金澤翔子
—— 共に生きる ——
個展30年記念展



2009年 建仁寺に奉納



西陣美術織 国宝・風神雷神

天使の書家「金澤翔子 書と織」展
母と書、共に歩んだ30年

〈とき〉2023年9月2日(土)・3日(日)・4日(月)・5日(火)・6日(水)
休館日 4日間

10:00～17:00 (最終日は15:00まで)

※最終入場は、閉館の30分前まで

〈ところ〉**グンゼ博物館 集蔵 入場無料**

綾部市青野町膳所1 あやべグンゼスクエア内
TEL:0773-42-3181 又は 43-1050

〈主催〉綾部「母と娘・共に生きる」実行委員会・事務局(芦田呉服店)
京都府綾部市西町1-46-2

〈協力〉グンゼ博物館

— お問い合わせ —
芦田呉服店
0773-42-0033

初日9/2(土)11時～16時 金澤翔子様・泰子様ご来館!

9月2日(土) 母と娘、綾部飛翔。

天使の書家
金澤翔子 書と織

翔子さんの真筆作品と、その書を
西陣美術織で織り上げた作品を
展示いたします

ドキュメンタリー映画
書家 金澤翔子
—— 共に生きる ——
全国上映記念展



2013年 東日本大震災復興祈願書



①「翔子・席上揮毫」と **入場無料**
「母と娘・トークショー」
～母と娘、共に生きる～

2023年9月2日(土) 11:00～12:00

要予約制(先着順) 定員60名

ご予約方法は
裏面に!

②「母と娘・トークショー」 **入場無料**
～母と娘、共に生きる～

2023年9月2日(土) 14:00～14:30

先着順(予約不要) 定員80名

①②共、会場は「グンゼ博物館 集蔵」になります。

切り取らず、このままFAXでお申し込みください。

「定員60名様(先着順)」でございます。

定員になり次第、締め切らせていただきます。

FAX 0773-42-8723

綾部「母と娘・共に生きる」実行委員会
事務局(芦田呉服店)あて

| | |
|---------------------|-----------------|
| お名前 ※または 代表者名 | |
| ご住所 | 〒 ー |
| ご参加者数 | 名様 (1グループ2名様まで) |
| TEL | |
| FAX | |



FAXは矢印方向へ

お問い合わせ及び当日の電話対応は
0773-42-0033(芦田呉服店)まで

千人に一人降り来るダウン症児を授かり途方に暮れた。私は為す術もなく辛苦の中で書に没頭していった。翔子はそんな母の姿をゆりかごの中から見ていたのでしょう。

五歳で筆を持たせた時、「これはうまくなるな」という可能性を秘めた持ち方をした。しかし当時は、知的障害のある娘を立派な何者かにしようなどという希望のカケラさえ持てなかった。

社会に溶け込めず、学歴の世界にも入れず、私にできることは翔子と一緒に書道をする
ことしかなかった。
書で日々を凌いでいた。



十歳の時の強制的な転校で苦しい刻に、幼い翔子には無謀であったけれど般若心経を書かせた。

鋭い感受性で母のやるせない思いを感じし、それを救おうと叱られ泣きながら、

二七六文字の難しい文字の心経を十組、三千字以上を書いた。

今でもこの心経には当時の涙の跡が残っていて、多くの人に愛されている。

苦しい時に名作は生まれるものです。

この時に翔子の持続力が養われ、楷書の基礎が身についた。そして親子は深く強く手を握り合えた。

社会に馴染めず孤独を感じる中、翔子が二十歳の時に、若くして亡くなった父親と約束した個展を開いた。

個展などというものは生涯に一度限りだろうと思いを尽くした。

個展は成功し、来場者の多くの方が翔子の書の前で涙を浮かべ感動してくれた。

この個展から翔子は書家と言われるようになり、以降個展が次々と開催され、その数は今や四百回を超えた。

そんな翔子は、この世の本当の摂理と繋がった。

世俗から離れて純粹培養されている故に、社会への欲望もなく、競争もなく、

他者を愛することしか知らない、純度の高い魂で書く翔子の書には魅力がある。

翔子の書は、人々に支えられ、また不思議な大きな力に抱かれた、翔子の感謝と祈りの書です。

この度、綾部市のみなさまが応援してくださることに深く伏して感謝申し上げます。

金澤泰子